

地域の実情と課題

・札幌市は、政令都市中女性の割合が最も高いが、女性の有業率は全国と比べやや低位で、就業女性の多くが非正規雇用である。さらに、全国に比べ子育て世代の労働者の就業時間が長く、男性が長時間労働をする傾向にあり、女性に家事・育児負担が偏る傾向がある。

・仕事や家庭等の悩みを抱え、不安を感じている女性のうち、行政等窓口で相談することにハードルが高いと感じ、孤立状態となっている女性が潜在的に存在するものと推測されるため、必要な支援につなげる必要がある。

事業の特徴

- ・相談員と一対一で落ち着いて話すことができる環境とした相談会を実施し、相談後に生理用品等の提供を行った。
- ・女性がリラックスでき、居場所づくりの一環としてのワークショップを開催。
- ・困難を抱える女性の相談窓口として、匿名で気軽に相談できるLINE相談の実施のほか、一度相談につながった女性に、近況確認するなどのフォローアップを実施した。
- ・困難を抱える女性の家に訪問し相談を行う、アウトリーチ型の支援を実施した。

事業の効果

- ・SNS相談での相談者は、具体的な解決策を得ることよりも、話を聞いてもらうことで満足感や安心感を得る傾向にあり、継続した相談体制とすることで、孤立・孤独感の解消につながっている。
- ・ワークショップの参加者からは、人とのふれあいができて嬉しいなどの会話もあり、参加者の満足度も高く、人とのつながりを創出する機会となっている。
- ・NPO法人等の知見を活用して、悩み等を語れる場や訪問・同行等の寄り添い支援を提供し、相談件数が目標値の90件以上となったことは、孤立し困難を抱える女性が、孤立状態から抜け出し、社会とのつながりを持つ一助となっている。

目的・目標

孤独・孤立状態になり不安を抱えている女性に対して、悩み等を語れる場の提供や訪問・同行等の寄り添い支援をすることで、孤立・孤独の解消を図る。

	目標	実績
「困りごとについて相談窓口があることを知っている」と回答した人の割合	60%	100%
困難女性相談件数	830件	923件

連携団体

- ・NPO法人女のスペース・おん
 - ・NPO北海道ネウボラ
 - ・特定非営利活動法人CAN
 - ・特定非営利活動法人リカバリー
 - ・特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンターL-Port
 - ・特定非営利活動法人女性サポートAsyl
 - ・株式会社FUJI
- など

今後の課題

- ・イベントや相談支援で一時的に関わりを持っても、その後関係が途絶えてしまう方も多く存在するため、つながり続ける支援が必要である。
- ・今後、高齢相談者の増加や困り感が見えづらい単身中年女性の孤立の増加が想定されることから、各関係機関や民間支援団体と連携して、つながる支援を模索していく必要がある。
- ・女性が抱える困難な問題は様々であるため、引き続き各関係機関と連携しながら支援を行う必要がある。

事業の概要

① 女性の居場所作り

女性支援を行うNPO法人等と連携して、相談会やワークショップ等を開催。

<相談会の開催>

相談員と気軽に会話ができることができる相談会を4回実施。事前に参加者が来場する時間帯を振り分け、混雑を防止し、相談員と一対一で落ち着いて話すことができる環境を整え、相談後は生理用品等を提供した。



<居場所サロンの開催>

女性が安心して交流できる時間を提供し、人や社会とのつながりを構築できるきっかけの場を創出することを目的として、居場所サロン「ヨガ体験会」を実施。相談員が参加者に付き添い、ヨガ体験後は参加者同士の交流時間を設けた。



<さっぽろレインボープライドへの出展>

若年層の困り感を調べるため、若年層が多く参加するさっぽろレインボープライドに出展。女性に対するアンケートを実施し、相談窓口の周知を行った。アンケート回答者には生理用品を配布した。



② SNS相談窓口の運営と広報

平日(年末年始・祝日を除く)においてLINEによるSNS相談を実施。相談内容に応じて、他の相談窓口の情報提供を行った。

③ 訪問相談支援(アウトリーチ支援)

様々な事情により、相談につながるできない女性を対象に、市内NPO法人が訪問相談支援を行った。また、相談者からの希望に応じて行政手続き等の同行支援を行った。

④ 相談者へのフォローアップ

一度相談につながった女性に対し、後日、近況を確認をしたり、次回イベント等の案内を行うなど、次の相談のきっかけとなるよう働きかけた。

⑤ アンケートによる実態把握

イベント等の参加者へアンケートを実施し、女性の属性や困りごとについて把握した。困りごとに対応できる関係機関の情報を事前に準備するなどして事業に活かした。